

5月例会報告

5月例会の様子を写真でご報告いたします。

(具体的な内容につきましては声楽発声研究に掲載されます)

特別講演

(1) 楠 威志 「鼻呼吸と腹式呼吸の重要性」



講演する楠先生

臨床の現場での具体例を紹介しながら、腹式呼吸の有用性を解説されました。音声、映像等も駆使し、その効果がよりわかりやすく伝わりました。

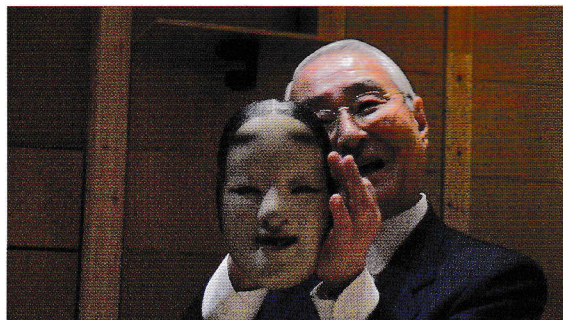
資料をもとに、実演・解説もありました。



(2) 野村四郎 「日本芸能(能楽)における伝統的技法について」



改装された第6ホールにて講演する野村先生



能はどのような歴史をもって今日に至ったのかをお話下さいました。

ホワイトボードを用いて図解したり、貴重な資料を提示したり、さらには、実演もありました。

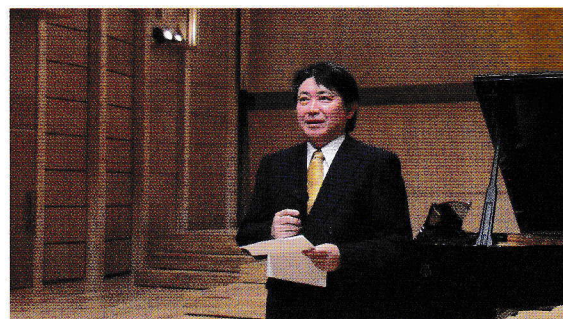
現役演奏家の演奏とお話

河野克典(バリトン)

ピアノ:岩下真麻



日本歌曲、ドイツリート、オペラアリアを演奏。



演奏後に、発声についてお話いただきました。

このコーナーでは、会員のみなさまの感想、レポート等交えて展開していきたいと考えています。

例会、研修会等の感想、レポート等を、メール、FAX、郵便等で事務局までお寄せ下さい。

学会通信担当 幹事 相川修一

50周年祝賀会フォトレポート

50周年祝賀会は、昼食時を利用して、美術学部大浦食堂で行われました。写真でご報告いたします。



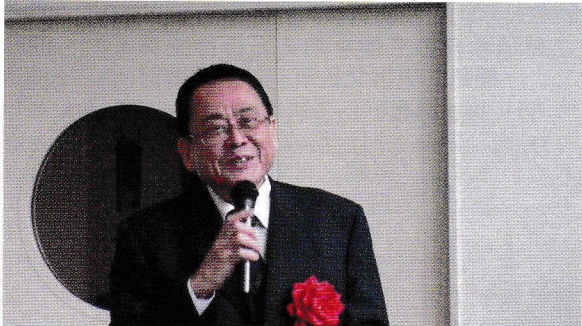
会長あいさつ 末会長



米山文明先生の祝辞を代読する川上副会長



感謝状贈呈 堀内久美雄氏へ



祝辞を述べる音楽之友社社長堀内久美雄氏



感謝状贈呈 宮原卓也先生へ



乾杯のご発声 宮原先生



感謝状贈呈 山田実先生へ



歓談の様子

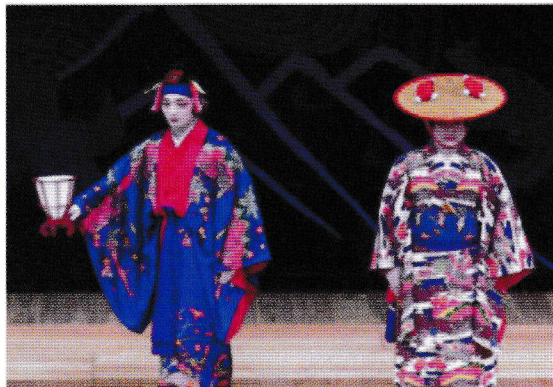


第100回例会ご案内 その2

日本声楽発声学会の今年度11月例会が沖縄で開催されることになりました。沖縄には、音楽や舞踊だけでなく染色や織物、陶芸、漆器などで独自の文化が育まれていることは知られています。

1972年国の重要無形文化財に指定されている「組踊」は、2010年11月にはユネスコの無形文化遺産に登録されました。「組踊」は、琉球王朝時代、明や清から来る王の使者の接待を目的として生まれたとされています。琉球王朝には、接待を司る「踊奉行(おどりぶぎょう)」という職が設けられており、玉城朝薫は、日本本土の芸能(能、狂言)に琉球独自の芸能を加えた接待式典ものを創作し、「鶴亀二児復父仇事」『二童敵討(にどうてきうち)』、「鐘魔事」『執心鐘入(しゅうしんかねいり)』の二題を上演したのが「組踊」の始まりとされています。「組踊」は音楽・舞踊・台詞からなり、一般に「舞踊劇」「音楽劇」などと呼ばれています。そのスタイルは能や狂言に近いのですが、多くは勧善懲悪をテーマにしており、能や狂言に類似する筋書きを見つけることのできる作品も多いです。「組踊」は使者のもてなしだけでなく、士族階級の娯楽として広く楽しまれ、琉球王朝が無くなった後、庶民の娯楽としても親しまれてきました。今回の例会の素晴らしい特色として、琉球伝統芸能における最高の実演が成されることがあると思います。

琉球王朝の「おもてなし」の伝統ののっとり、例会の最初に歌い舞われます。是非とも、沖縄の自然の中で、悠久の世界に遊びながらの歌舞を体験して頂けたら幸いです。



写真提供 沖縄県立芸術大学 音楽学部琉球芸能専攻

本例会の会場は沖縄県立芸術大学の奏楽堂ホールとなります。本学の音楽学部と美術学部の一部は首里城の敷地内に在り、私の研究室からも首里城が近くに見えます。赤い首里城と遠くで輝いている美しい青い海を見ることが出来ます。音楽学部には琉球芸能専攻があり、三線の音がよく風に乗って流れてきますが、その音を聴くと、ゆったりとした気持ちになります。ここ沖縄には、古来流

れている、ゆったりとした時間があると思います。

抜けるような青空と光輝く海、そして赤い首里城のコントラストを見ていると、何とも強い生命力を感じ、胸の鼓動が強くなるように感じます。沖縄の全ての結婚式場に舞台が設置されており、余興に、それこそ生命をかけて一生懸命に練習に取り組むのが普通だそうです。私は赴任して5年目に入り、沖縄が大好きになりましたが、この沖縄の人の熱い気持ちを「本当に素晴らしい!」と常に感じています。

この度、日本声楽発声学会第100回例会が沖縄で開催されることを大変喜んでおります。たくさんの方々と、沖縄の空の下、音楽に集うことを希望しております。沖縄支部の理事の先生方、そして会員の皆さまと共に、精一杯努めさせていただきます。心よりお待ちしております。よろしくお願いたします。



豊田喜代美

日本声楽発声学会理事、沖縄支部長、沖縄県立芸術大学教授

～～日本声楽発声学会 第100回例会～～

■日程 平成26年11月29日(土曜日) 沖縄県立芸術大学奏楽堂ホール 午後13時～19時00分

■内容 ※ 司会進行: 川上 勝功(本学会副会長)

・日本声楽発声学会会長挨拶 末 芳枝

■記念コンサート(第一部)

琉球伝統芸能: 古典音楽・舞踊・組踊

■研究発表

①沖縄の歌三線について

発表者 仲嶺 伸吾(琉球古典音楽家・沖縄県立芸術大学准教授・本学会沖縄支部会員)

②琉球古典音楽と声楽との交感演奏

・ベルカントで歌う琉球民謡の演奏 泉 恵得

・琉球古典音楽「仲風節」の演奏 仲嶺伸吾

③琉球音楽への一考察

発表者 泉 恵得(声楽家・琉球大学名誉教授・本学会本部理事・沖縄支部副支部長)

④西洋音楽・声楽の声の種分けについて

発表者 豊田 喜代美(声楽家・沖縄県立芸術大学教授・本学会本部理事・沖縄支部長) 上杉 清仁(声楽家・バツハ・コレギウム・ジャパンメンバー・本学会本部会員)

⑤「音声障害をきたした歌手の自覚的評価」～Singing Voice Handicap Index の検討～

発表者 西浦 美佐子(西浦耳鼻咽喉科医師・本学会本部会員) 竹田 敦章(仙川耳鼻咽喉科医師・本学会本部理事) 米山 文明(米山耳鼻咽喉科医師・本学会本部名誉会員) 小林 武夫(帝京大学ちば総合医療センター耳鼻咽喉科医師・本学会本部名誉会員)

■記念コンサート(第二部)

・声楽アンサンブル(宗教曲)・声楽アンサンブル(オペラ)

・沖縄の歌の合唱・「芭蕉布」の歌唱(参加者全員)

※やむを得ず、内容・出演者の変更場合があります。

★懇親会 19:30～21:30 参加費: 5000円(予定)

～～沖縄観光案内について～～

パンフレットを2通同封しますのでご覧下さい。

会員からの投稿

教室で目指したい歌声

～歌唱指導における実践から(I)

豊田 肇

◎はじめに

私は今年の春、音楽之友社「教育音楽」編集部から中・高校版の5月号に掲載する授業実践に関する記事の執筆を依頼されました。掲載号が発売されるのは4月下旬。つまり、多くの新任教師たちが初めて現場に出て生徒たちと授業に取り組み、あれこれ悩みながら現場での日々を過ごす時期です。現状において国内の中・高校の音楽教員全てが声楽を専門に学んできているわけではありません。初めての授業で初めて本格的に歌唱指導と格闘している新任教師も少なくないでしょう。

折しも、今春より自分の教え子が音楽教諭として高校の教壇に立つという知らせを聴き、彼女そして彼女と同様な立場の若い先生たちの背中を押すつもりで原稿を書き上げました。その作業は結果的に自分の指導法や教師としての歩みを見つめ直すこととなりました。

今回は「教育音楽」に投稿した文章をもとに、更に補足や図・写真等を付け加えて、自分の考えを述べていきたいと思います。

◎歌唱表現をするための基盤をどこにおくか

文科省の学習指導要領に記されている「曲種に応じた発声の特徴を生かし表現を工夫して歌うこと」。この文章はあたかも多種多様な発声を用いて歌唱表現することこそが目的のように捉えられやすいように感じます。

ですが、教科書の大半が西洋音楽の記譜法で書かれた楽曲で構成され、収録されている歌唱教材についてもポピュラー音楽、日本音楽を含む民族音楽を除けば西洋の芸術歌曲と日本の芸術歌曲(ともに斉唱扱いが多い)、合唱曲にほぼ集約されている現状から歌唱発声の基盤を西洋音楽の発声法に置き、そこから教材の内容に応じて発声や表現の幅を拡げていくべきだと私は考えています。

◎合唱大国ハンガリーの音楽教育で注目すべきこと

ハンガリーはコダーイシステムによる小学校からの高度な音楽教育で有名です。音楽小学校での実践の様子を収録したDVDも有りますのでご覧になられた先生も多いのではないのでしょうか。自分がその映像を観て注目したのは指導者(女性)の歌声の美しさでした。

オペラ歌手のような迫力満点の歌声ではなく、あくまでシンプルな、しかし美しい響きのある



声。丁度、小学生たちが素直に伸びやかに歌っている声のような清楚な美しさがありました。子どもたちは耳で先生の声覚え、知らず知らずうちに理屈でなく先生の声を模倣していきます。指導者の発声技術、ここにハンガリーの音楽教育の秘密の一端があるように思います。

日本ではどうでしょうか。音楽大学や教育大学で特に声楽を専攻してきた学生が教育現場に立った時、児童・生徒に寄り添った歌声で授業することができているか、また大学側が学生にそういった視点で発声教育を行なっているかどうか疑問が残るところです。(少なくとも私が大学生の時にはありませんでした。)

◎私が教室で目指す声

そういつたことから、私が初めて教壇に立った時、それから初めて異動して女子高校に着任した時、私自身が授業でどのように発声指導したらよいかわかりませんでした。しかし、日本声楽発声学会に参加し、様々な先生に出会い自分でも勉強を重ねるなかで、合唱が生徒にもたらす豊かな音楽性に気づくことができました。その結果、私は授業や部活動(合唱)において、自分が大学で学んできたドラマティックな独唱の発声でなく、他者の音を受け入れることの容易な低次倍音を豊かに含んだしなやかな発声(合唱の基本的な発声)を目指していく決意をしました。

◎歌唱指導として発声練習を行なう目的と実際

発声練習は歌唱する上で必要な音域(声域)を確保・拡張し、より自由な歌唱表現をするための大切な準備練習となります。(時間の都合で一部省略することも勿論あります。)

私は以下の(1)から(5)までを一つの流れとして扱っています。

- (1) 身体ほぐし(呼吸器をコントロールする筋肉群のウォームアップと身体を楽器にするための準備)
- (2) 呼吸練習(身体を楽器にするためのトレーニングと呼気・吸気の通り道の確認)
- (3) ハミング(豊かに倍音を含んだ歌声で音域の確保と頭声・胸声の連結・共鳴腔の確認)
- (4) 母音による音域拡張(話し声と歌声の違いに注意しながらレガートに歌う練習)
- (5) アンサンブル練習(純正な完全5度、完全4度、長3度(短3度)、長3和音、短3和音etc.)

今回の投稿にて、(1)身体ほぐしから(3)ハミングまでをどのような意図でどのように行なっているのかを具体的に述べたいと思います。

(音楽之友社刊「教育音楽 中学・高校版」2014年5月号 「高校特集・授業は得意分野で勝負!」に掲載された記事に加筆し投稿 2014年7月)

ベルカントを巡る

No.3 「スコラ・カントルムとベルカント」

河合孝夫

どんな時代にもひとは「想い」を持って歌を歌う。その「想い」が千数百年のときを経てベルカントになっていった。



さて、紀元325年キリスト教が公認され、キリスト教典礼音楽はキリスト教の広がりと共にヨーロッパ中に広まり、その音楽概念は、ヨーロッパ各地の部族や民族で演奏される民衆の音楽よりも上位に位置する「よき音楽=よき技術=Art」と考えられた。その結果、キリスト教典礼音楽の発展を基礎とする音楽理論が、ヨーロッパ共通の音楽理論となり現代のヨーロッパ音楽の基礎ができたのである。そして、その発展を担い実行したのが、スコラ・カントルム（声楽学校）で教育された司祭達であった。彼らは、神への信仰と使命感をもって、「よき音楽」をヨーロッパ各地の教会で歌い指導していった。

紀元364年のラオディケア公会儀で聖歌は司祭だけで歌う事になり、優秀な司祭を育てる必要性から、スコラ・カントルムが企画された。そしてローマを初めとしてヨーロッパ各地に建てられ、前述のようにその後のヨーロッパ音楽の発展に多大な貢献をすることになる。

スコラ・カントルムでの教育環境はどのようなものであったか、紀元7世紀、教皇グレゴリウス1世がローマに建てたスコラ・カントルムを例に見てみよう。それは2つの建物からできており、一つは教師（司祭であり歌手である）の建物、もう一つは生徒（才能のある少年たち）の教室と寄宿舎のための建物であった。授業は実践的で楽譜はなく、教師が健康的な発声法と美しい音色で範唱し、それを生徒が模唱する形で4年間行われた。

教会は、頭がよく音楽の才能はあるが教育機会の無い貧しい子供を集め、無償で教育した。今のような音楽学校のシステムが無い時代は、多少の変化はあるものの、同様な形で音楽教育が行われた。現代のヨーロッパにもその精神は残っており、ヨーロッパの多くの音楽学校の授業料は我が国よりはるかに安い。また、個人的にも、優れた音楽家が貧しいが才能のある子供達を無償でレッスンし、すばらしい音楽家に育てる例をみることができる。

同様な話は我が国にもあり、明治大正の時代ま

で、田舎の貧しい家庭に生まれた頭の良い子や声の良い子を、村の住職が京都の本山に連れて行って教育し、よい声のお坊さんに育てたという話を聞いたことがある。洋の東西や時代を問わず、文化は「よきものへの情熱」で創られ、教育は「次の世代への愛情」でされるのではなからうか。

ところで、千数百年前のスコラ・カントルムの人たちはどんな想い（イメージ）で歌を歌ったのだろう。

旧約聖書の冒頭『初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水面を動いていた。』とあり、この霊という言葉へヘブライ語で「ルーアッハ」と言い「気」「息」「風」を意味するのだそうである。この「ルーアッハ」の意味する言葉に注目して聖書を読んでみると、モーゼがイスラエルの民を率いてエジプトから脱出する時、常に前にあつて彼らを導いたのは「雲の柱=竜巻」、紅海を二つに分けたのは「神が吹かせた東風」であつた。また、新約聖書の中で『ベテスダの池は…天使が降りてきて水を動かす…その水が動いた時に真っ先に水の中に入ると、どんな病気でも、たちまち癒される…』とある。もちろん水面を動かすのは「風」である。

現代のような音楽理論も無く楽譜も無い歌のレッスンは、教師の人間性と経験に頼った極めて人間的な指導であつた。教師である司祭は、おそらく、伝導と布教の旅でアルプスを越える時、命の危険の中、神を感じながら祈るように歌つたであろう。また、言葉の分からない人々の前で歌う時、神の魂を声で表現したであろう。それらは、「ルーアッハ」=「風」ように目には見えないが空間を移動する不思議な力となり、経験を生かした情熱的な生徒への指導で、グレゴリオ聖歌の、「風のように空気の中を漂う」アルシス（飛翔）とテシス（休息）のレガートな律動感をレッスンした事であろう。

我々が音楽の基礎とする「音律」や「拍子で繰り返す拍動感」「分割された音符のリズム感」は、その後「よき音楽」が芸術として神の真理を具現化していく過程でしだいに理論化されていくのだが、この「空気の中を漂うような」というレガートな歌唱法への想いは、今でもベルカント唱法の基本となっている。（2014年7月投稿）



今後の予定

平成26年 夏季研修会

学会通信でお知らせしたとおり、理事会にて検討を重ねてまいりました。

ですが、打診した会場（複数）が工事等で使用できず会場確保が困難であったことや、50周年記念演奏会、沖縄での第100回例会など大きな催しが控えていることから、今年度の夏季研修会は中止とし、演奏会、例会の成功に注力することと決定いたしました。

本企画を楽しみにされていた方には申し訳ありませんが、上記催し、来年度の夏季研修会にご期待下さい。

創立50周年記念演奏会

9月15日（月・祝）15:00開演

（14:30開場）

会場 三鷹市芸術文化センター 風のホール

*詳細は同封のチラシをご覧ください。

*電子版をご覧の方はホームページのコンサート案内をご参照下さい。

第100回記念例会（11月例会）

11月29日（土）13:00～19:00

会場 沖縄県立芸術大学 奏楽堂

*詳細は27号記事、P4の記事をご覧ください。

（最新情報をホームページに随時掲載します）

*開始時間が、前回の案内より1時間早い

13:00に変更になりましたのでご注意ください。

*懇親会を19:30から近隣レストランにて開催します。参加費は5000円です。

会員の動向

～～ 雑誌記事掲載案内 ～～

・豊田 肇

「教育音楽 中学・高校版」

2014年5月号 音楽之友社

「高校特集・授業は得意分野で勝負！」

【歌唱】教室で目指したい歌声

歌唱指導における実践から

・小川昌文

「教育音楽 中学・高校版」

2014年7月号 音楽之友社

「Interview◎音楽教育の未来への提言」4

音楽の力を受けつぐために

～～ コンサート案内 ～～

杉原かおりソプラノリサイタル

～イタリアの旋律Melodie Italiane～

19世紀後半から20世紀半ばのイタリアでは、イタリアの伝統的な歌唱のスタイルとは一線を画した詩と音楽が密接に結び付いた歌曲が、レスピーギやピッツェッティなどによって数多く作曲されました。これらの歌曲は、母国イタリアでも演奏機会が少なく、耳にすることは稀ですが、イタリアの歌唱史上重要な役割を担っています。このコンサートでは、イタリア近代の詩人ダンヌンツィオと作曲家というテーマをメインに置きながら、それ以前のオペラの作曲家の作品も取り上げながら「イタリアの旋律 Melodie Italiane」を幅広く紹介させていただきます。

G.ヴェルディ：オペラ<オテッロ>より「柳の歌」

E.ヴォルフ＝フェッラーリ：オペラ<小広場>より

「さようなら、愛しのヴェネツィアよ」

F.P.トスティ：「バラの香りが漂う」

他

ソプラノリコ：杉原 かおり

ピアノ：近藤 広志

ヤマハホール（銀座）

2014年9月20日（土）14時開演

自由席：3500円 チケットぴあ

問い合わせ：CONCERTOVOCALE事務局

concertovocale0310@gmail.com：080-1847-8472

「ムシカ・ポエティカ」発足30周年記念コンサートシリーズ～その4～<レクイエムの集い>2014

フェリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ

《挽歌》混声4部ア・カペラOp.116

《夕べの祈りの歌》男声3部/Vc&Kb Op.121 ほか

合唱：ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京

指揮

淡野太郎

★★★★～☆～★★★★

鈴木ユリイカ 詩 江端伸昭 作曲

女声3部合唱とピアノのためのコンチェルト

《海のヴァイオリンがきこえる》（2002）

「わたしが死ぬまで戦争を憎むのはたくさんの人が死ぬだけでなく、生き残った者の神経もズタズタにするからです」 鈴木ユリイカ『海のヴァイオリンがきこえる』より

合唱：アンサンブル『海のヴァイオリン』

指揮：淡野弓子 ピアノ：江端伸昭

2014・11・14 [FRI]19:00

三鷹市芸術センター「風のホール」

全自由4000円 学生 2500円

例年のように追悼なさりたい方のお名前をプログラムに掲載させて戴きます。

連絡先：03-3970-0585/03-3998-8162

e-mail:yumiko@musicapoetica.jp

主催：ムシカ／ポエティカ

チケット予約／マネジメント：菊田音楽事務所T&F

042-394-0543

事務局から

会費納入のお願い

年会費の納入がお済みでない方、納入をお願いします。また、過年度の年会費未納の方は早急にお振込下さいますよう、お願いいたします。通信欄には、該当年度をご記入下さい。

お振込先

ゆうちょ銀行

口座番号 00170-0-119920

加入者名 日本声楽発声学会

連絡先について

郵送物の不着が発生しています。転居等で連絡先に変更はお早めに連絡ください。

学会誌『声楽発声研究』5号

発行遅延のお詫び

学会誌の第5号の発行が本年度遅延しております。原因は編集委員長と事務局長が兼任となり、業務が集中して編集作業が滞っているためです。

会員の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、発行予定時期を秋にさせていただきますことをご許しいただきたく存じます。中身は充実したものになると確信しておりますので、ご期待ください。また、発行の予定時期につきましては、ホームページにてもお知らせする予定ですのでご覧ください。(事務局長)

事務局だより

副会長(事務局長兼任) 小川 昌文

学会通信第28号をお届けします。

去る5月例会においては、創立50周年を迎えて特別講演を2本、感謝状の贈呈を行ないました。来る9月15日には淡野理事が中心になって企画しました「創立50周年記念演奏会～歌の集い9：柴田南雄《宇宙について》」が行なわれます。そして11月には、沖縄県立芸術大学にて第100回例会が開催されます。内容はとても充実した、素晴らしい研究発表、演奏になると思います。(詳細は本号およびホームページをご覧ください) 会員の皆様におかれましては、またとない機会ですので、万障繰り合わせの上ご参加いただきますよう執行部一同よりお願い申し上げます。美ら海、沖縄で皆さんにお目にかかれましてを心より楽しみにしております。



事務局次長 永井和子

本年9月15日(月・祝)、本学会の設立50周年記念行事として、三鷹市「風のホール」での「歌の集い」合唱



コンサート《宇宙について》の公演、準備方々練習も着々と進んでおります。

そして、沖縄での11月例会もご期待に添える企画となりますよう、沖縄支部会員の方々も頑張って準備を進めておられます。沖縄への航路・宿泊等ご購入方法は、前回の学会通信第27号をご参照ください。ご質問がございましたら、事務局までお尋ねください。合唱コンサート、沖縄例会、併せ多くのご参加をお待ちしております。

このところ、恒例となっておりますこれまでの会場や例会内容に変化を持たせ、設立50周年にふさわしい意義ある催しとなりますよう、今一度理事一同一丸となって頑張ります。会員の皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお今回は、豊田肇幹事と、河合孝夫理事から投稿をいただきました。

編集後記

幹事 相川 修一

ホームページや学会通信が更なる充実をみていることに、お褒めの言葉をいただくことが多くなりました。これも皆様方のご支援の賜物と感謝いたします。これからは、会員相互の交流と発声学会の発展のために尽力していく所存です。



学会通信では、写真を多用し、ライブ感をだしていこうと考えて編集しています。将来的には、動画、音声の活用も検討しています。

学会通信記事への意見、感想、例会や研修会等のレポートや感想等もぜひお寄せ下さい。今年度は、大きな行事が目白押しですので、ぜひともこの機会にご投稿下さい。

また、コンサート等の案内、実施の報告、出版、メディアでの活動等、情報をお寄せ下さい。ホームページには最新情報を随時掲載してまいります。ぜひご覧ください。

2014年8月13日

日本声楽発声学会 学会通信 第28号

発行人 末 芳枝

編集人 相川 修一

発行 日本声楽発声学会事務局

〒241-0002 神奈川県横浜市

旭区上白根1-5-552 小関 方

TEL/FAX 045-952-3813

e-mail :jars@jars-voice.com

HP: <http://www.jars-voice.com>